



学校だより

令和4年11月30日
横浜市立仏向小学校
12月号

みんなちがって、みんないい

校長 大嶋 智子

先日、1年生と一緒に、“秋さがし”に保土ヶ谷公園に行ってきました。「見て見て!ほらっ!」と、子どもたちはお気に入りのどんぐりやツルなどを見つけ、生活科で使う材料を収穫してきました。黄色く色づいた木々の間を駆け抜けたり、落ち葉シャワーを全身に浴びたりして、秋を存分に楽しむことができました。

イチョウの紅葉は、格別でした。イチョウの葉は、どれも同じ形のように思われますが、切れ込みや大きさなど、どれ一つとして同じ形の葉はないそうです。一つ一つの形や大きさの違う葉が集まるから、黄色く染まったイチョウの木がより一層美しく感じられるのかもしれません。

人も同じです。姿や顔かたち、性格など一人ひとり違います。違う人が集まるからこそ、いろいろな考えも生まれます。金子みすゞさんの「私と小鳥と鈴と」の詩を紹介します。



私が両手を広げても、お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように地面を速くは走れない。
私がからだをゆすっても、きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴はわたしのように たくさんの唄はしらないよ。
鈴と、小鳥と、それから私。みんなちがって、みんないい。

「みんなちがって、みんないい」は、頭ではわかっています。しかし、私たちの周りには、自分と違うことへの差別や偏見、無視、仲間はずれやいじめがないとは言いきれません。

子どもたちは、12月の人権週間をはさんだ期間に、学年ごとの主題にそった講師に人権についてのお話をうかがいます。いろいろな立場にある方々の生き方考え方に触れ、子どもたちは、自分を見つめ、自分自身も持っている差別や偏見に気づいていくことでしょう。1年生は聴覚障害理解と手話体験、2年生は知的障害理解、3年生は高齢者理解、4年生は視覚障害理解とアイマスク・白杖・点字体験、5・6年生は国際理解・外国につながる人への支援を主題に学習をすすめています。互いに認め合い、支え合い、共に生きようとする気持ちを育てる仏向小学校の人権学習の取組です。

すでに実施した学年の子どもたちは、目に見える様子や自身の思い込みで様々な障害を理解していたことにハッと気づかされているようでした。外見からは分からないそれぞれが抱える事情もわかり、身近な問題として心を揺さぶられ、みな真剣な表情で話を聞いていました。

11月22日に授業参観で実施した情報モラル講座には、想定以上の多くの保護者の皆様にご参観いただきました。物凄いスピードで子どもたちの生活の中に進んでいるオンラインゲームやYouTube、SNS等利用の低年齢化の現状に驚き、改めてインターネットでのコミュニケーションでも人権感覚のアンテナを高める必要を感じた方も多かったのではないのでしょうか。

人権週間には、どんな考えで、どんな行動がよいのか、各学級で話し合います。ご家庭でも話題にしていただければと思います。